

西洋なし栽培情報 第2号

令和6年4月24日
J A アルプス
富山県富山農林振興センター

1 概況

「ラ・フランス」の開花盛期は、4月15日頃（前年値4月9日、平年値4月15日）で、平年並みとなりました。

今後は、実どまりが確認でき次第摘果作業を進め、スムーズな果実肥大を促しましょう。

2 摘果作業について

(1) 予備摘果（1回目の摘果）

- ①満開10日後程度で結実が確認できるので、速やかに作業を始め、遅くとも満開30日後までには終了するよう作業を進めてください。
- ②果形及び肥大が良く、軸の太い果実のうち、1果そうの中で下から数えて3～4番果を中心に1果残してください（写真1）。
- ③結実量が不十分な場合は、通常は摘果するような奇形果や傷果等も残し、新梢の過繁茂を防ぐとともに、樹勢が強くなりすぎないように留意してください。

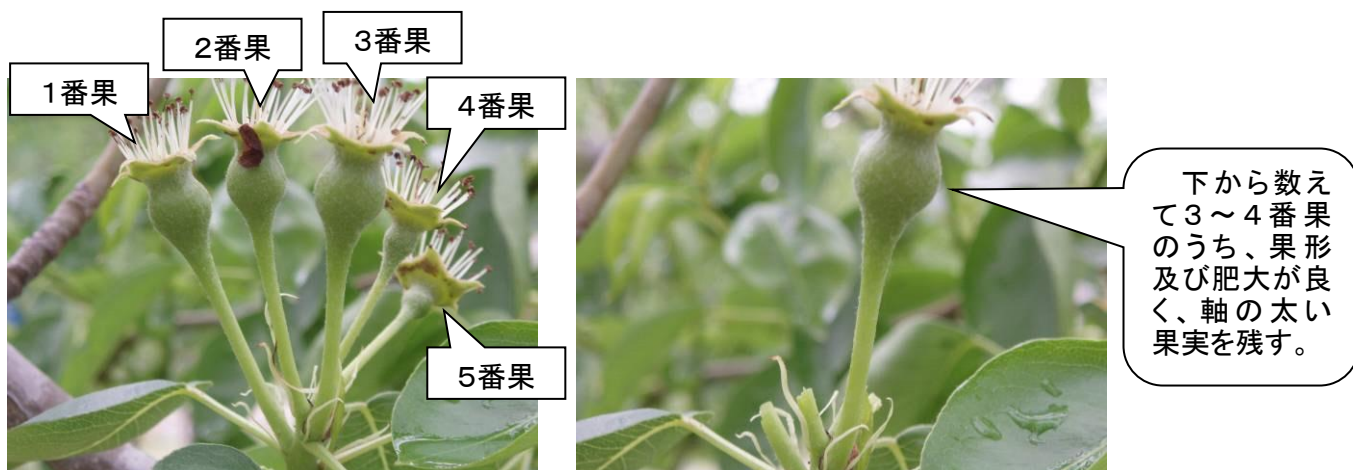


写真 「ラ・フランス」の着果番果と残す果実

(2) 仕上げ摘果

- ①予備摘果終了後、速やかに作業を始め、満開45日後までに終了してください。特に「ラ・フランス」は摘果の遅れ、着果過多が原因で隔年結果を起こしやすい品種であるため、十分注意してください。
- ②着果させる部位は、主に枝の長さが5～15cmの短果枝・中果枝とします（図）。
- ③枝の長さが30cm以上の長果枝先端の果実や、腋芽果（二年枝（前年に伸びた枝）の腋に着生した果実）は翌年の花芽形成等に影響するので、すべて摘果してください。
- ④着果量は、4～5頂芽に1果を基本とし、樹勢が弱い（新梢の伸びが短く、葉が少ない）場合は少なめに、樹勢が強い（新梢の伸びが旺盛で、葉が多い）場合は多めに着果させてください。

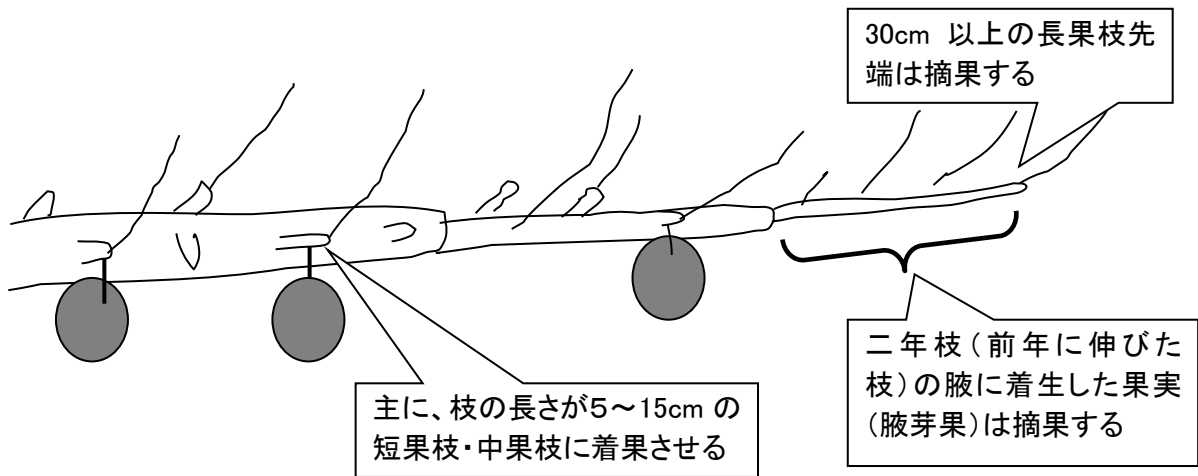


図 仕上げ摘果時の着果部位のイメージ

3 今後の病害虫防除

散布間隔が空きすぎないように、また、散布ムラのないよう下表を参考に防除を実施してください。

なお、降雨により病害の感染が広がるので、雨前散布を基本としてください。

成木基準

(散布量：500L/10a)

回	時期	主な対象病害虫	散布薬剤名	希釈倍数	100L 当たり 必要薬剤量
4	5月上中旬	黒星病、黒斑病、心腐れ症 ハマキムシ類、アブラムシ類、シクイムシ類 (果実の表皮障害防止) (展着剤)	デランフロアブル	1,000倍	100mL
			スミチオン水和剤40	1,000倍	100g
			クレフノン	100倍	1kg
			マイリノール	20,000倍	5mL
5	5月中下旬	黒星病、黒斑病、心腐れ症 (果実の表皮障害防止) (展着剤)	トレノックスフロアブル	500倍	200mL
			クレフノン	100倍	1kg
			マイリノール	20,000倍	5mL
6	6月上旬 (袋かけ直前)	黒星病、黒斑病、輪紋病 ハマキムシ類、アブラムシ類、シクイムシ類、モンシロドクガ (果実の表皮障害防止) (展着剤)	ベフキノール水和剤	1,000倍	100g
			ダイアジノン水和剤34	1,000倍	100g
			クレフノン	100倍	1kg
			マイリノール	20,000倍	5mL

※4月までの防除は、栽培情報第1号を参照ください。

農薬散布に当たっては、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。また、周辺の他の作物や住宅に薬剤が飛散しないように十分注意してください。

4 袋かけ

袋かけは、輪紋病、胴枯れ病の被害を防ぐため必ず行ってください。袋かけ作業は、仕上げ摘果終了後から始め、6月中旬頃までに完了してください。

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。